



株主のみなさまへ	1
業績ハイライト	3
事業別トピックス	4
CSR/サステナビリティ	8
連結財務諸表の要旨	9
株式情報	10

株主のみなさまへ



株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進み、緩やかな持ち直しの動きも見られましたが、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制等を受けた原材料やエネルギー価格の高止まり、供給面での制約がありましたほか、世界的な金融引締めにより景気の下振れや急激な為替の変動もありました。また、主要市場の一つであるディスプレイ業界では在庫調整の動きが急速に進むなど、東洋インキグループの活動にとって大変厳しい影響がありました。

この結果、当連結会計年度の売上高は増収になりましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はそれぞれ減益になりました。

東洋インキグループは、1896年の創業以来、顔料・樹脂・分散などのコア技術に基づき、それぞれの時代の社会ニーズに応じた製品を提供してまいりました。社会環境が目まぐるしく変化する中で、新たな時代に貢献し更なる成長を遂げるため、当社の提供価値を「感性に響く価値」と再定義することにいたしました。そして、変わりゆく時代のニーズ・課題を先んじて見つけ出し、「一人ひとりが主役となり、世界の人びとに先端の技術で先駆の価値を届ける会社」へと変革するという強い決意を示すとともに、その実現に向け、想いを込めた新たな商号「artience株式会社」（読み方：アーティエンス）に2024年1月、商号変更することを株主のみなさまにご承認いただきました。

生活者の心を動かす「感性に響く価値」を世界に提供していくとともに、全社員の意思と力を結集し、心豊かな未来の実現に貢献してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも未永くご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

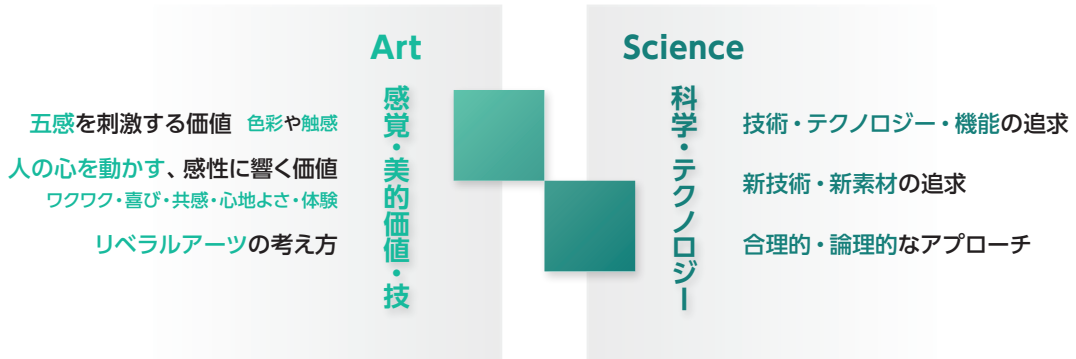
代表取締役社長 高島 悟

新商号

artience

artience (アーティエンス) は、「art」と「science」を融合した言葉です。
artは色彩をはじめとした五感や心への刺激に加えリベラルアーツの観点、
scienceは技術や素材、合理性を表現しています。

当社の強みであるartとscienceを融合し磨き上げることによって生まれる、人の心を動かす「感性に響く価値」を世界に提供していくことで心豊かな未来の実現に貢献していくという思いを表しています。



アートとサイエンスの融合で感性に響く価値を生み出していく

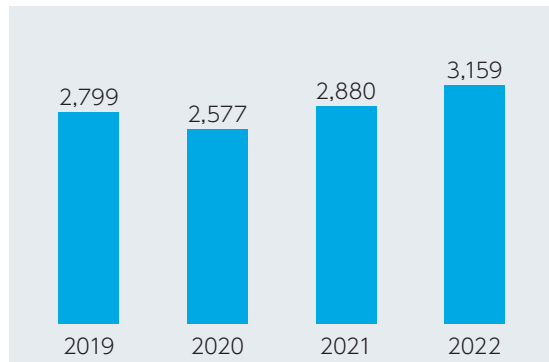
業績ハイライト

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年度の期首から適用しており、2022年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

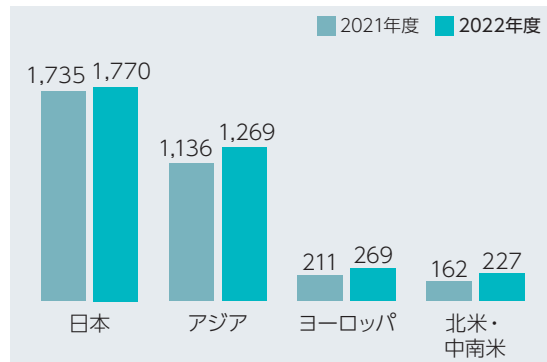
売上高推移

単位：億円



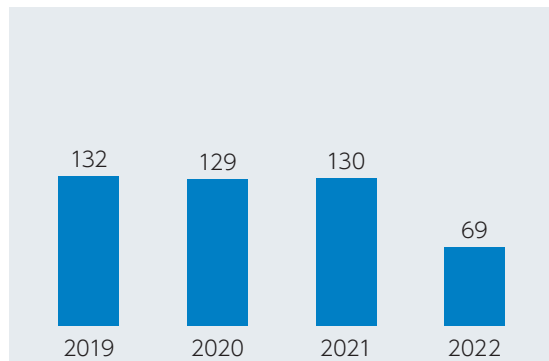
所在地別売上高

単位：億円



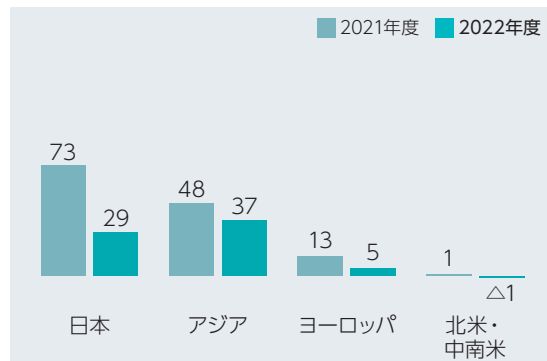
営業利益推移

単位：億円



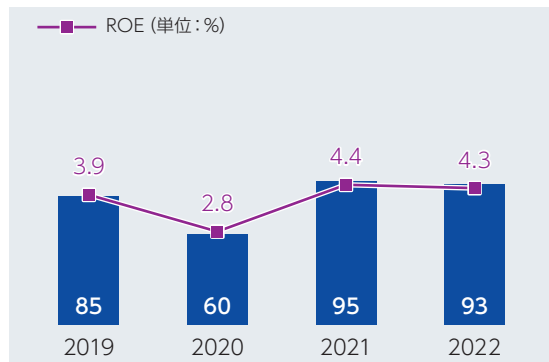
所在地別営業利益

単位：億円

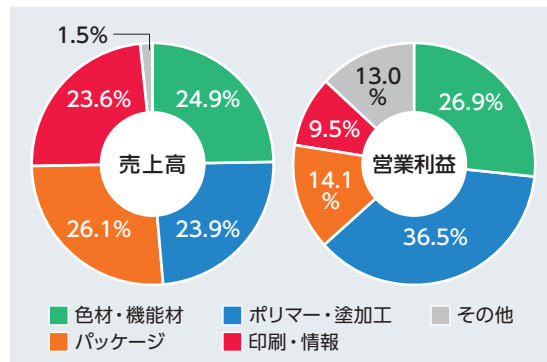


親会社株主に帰属する当期純利益推移・ROE

単位：億円



事業別構成比



色材・機能材

ブルーライトが 有機ELディスプレイの劣化を 促進することを実証

トーヨーカラー株式会社（以下、トーヨーカラー）は、ブルーライトから有機EL素子を保護することで、有機ELディスプレイの劣化を抑制できることを実証いたしました。当社が開発したブルーライトカット剤を用いて380~420nmの波長をカットすることで、有機ELディスプレイの長寿命化が可能になります。



有機ELディスプレイはその画質の高さからハイエンドモデルのスマートフォンやテレビなどで採用が進んでいますが、特に青色素子の耐久性が低く時間の経過とともに画質が劣化するため、液晶ディスプレイと比較し製品寿命が短いといわれています。

有機EL素子の劣化要因としては素子が繰り返し発光することや紫外線が挙げられ、これまで様々な対策がなされてきました。ブルーライトによる影響も劣化要因の一つと推定されていましたが、実用に耐えうる適切なブルーライトカット剤がなかったこともあり、これまで証明はされていませんでした。この度トーヨーカラーは、有機エレクトロニクス分野の最先端実証研究機関である山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター結城敏尚准教授の協力のもと、ブルーライトが有機EL素子に与える影響を実証いたしました。当社のブルーライトカット剤を用いて有機EL素子を保護することで、現行構成と比較して電圧上昇を約60%抑制することができます。これ

により、有機ELディスプレイの寿命を延ばすことが期待できるほか、より過酷な使用環境での耐久性が求められる車載用途や屋外のサインージなどへの展開も可能になります。さらに、円偏光板レスでも劣化を十分に抑制することから、フォルダブル／ローラブル端末の用途拡大が期待されます。

トーヨーカラーは、要素技術である合成技術・分散技術を活かし、「機能材で社会課題の解決」を提案し続けることで、お客さまの製品訴求力向上に寄与し、未来に向けたディスプレイの進化と新しい生活文化の創造に向けて貢献してまいります。

ポリマー・塗加工

トーヨーケムのセンシングシステム「Fichvita®」が パラマウントベッドの 床ずれ防止エアマットレスに採用

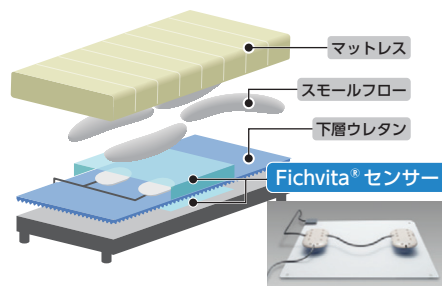
トーヨーケム株式会社（以下、トーヨーケム）が提供するセンシングシステム「Fichvita（フィッチヴィータ）®」が採用された、パラマウントベッド株式会社の床ずれ防止エアマットレス「こちあ利楽（りらく）flow」は、業界初の自動で姿勢を検知するセンサーの市場における好評価を受け、2020年の発売開始以来2年を迎え、販売数を順調に伸ばしています。

Fichvita®は、シート状のユニットを組み合わせて使用する非光学式行動検知システムです。個人情報収集せず、また生活者から「被視感」を払拭した生活に溶け込んだセンシングが可能であることから、これまで自動運転バスの着席状況や、店舗の来店者数・滞在者数をリアルタイムに把握する実証実験を進めてまいりました。

この度Fichvita®は、パラマウントベッド株式会社の体位変換、姿勢保持を全自動で行う床ずれ防止エアマットレス「こちあ利楽flow」に採用され、2020年10月の発売開始以来、当初の見込みを大きく上回る出荷となっています。

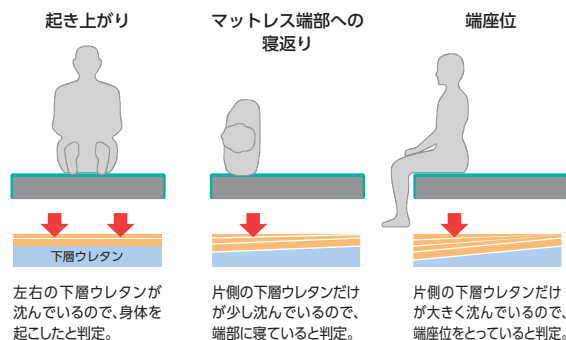
こちあ利楽flowのマットレスの内部には上下から挟み込むようにFichvita®が設置されています。

患者の寝位置がずれてマットレスが変形すると、Fichvita®間の距離の変化を検知し、体位変換を自動で行う機能（スモールフロー）を自動で停止させ、ずれの発生やベッドからの転落を防ぐほか、患者が離床しようと



身体を起こしたことを検知して、マットレス全体の内圧を上げ硬くすることでベッドの端に座った際の姿勢を安定させます。

トーヨーケムは、独自のポリマー・テクノロジーから生まれた要素技術をお客さまのニーズとマッチングさせ、お客さまと一緒にイノベーション製品を開発することで、世界中の社会課題解決に貢献できる企業を目指してまいります。



パッケージ

100%バイオマス由来の 生分解性樹脂を使用したヒートシール剤 味の素株式会社「パルスweet® スリムアップシュガー®」<スティック20本入袋> の包材に採用

東洋インキ株式会社（以下、東洋インキ）が開発した、100%バイオマス由来の生分解性樹脂「ラクティプス」を使用したヒートシール剤「アクワシール®」が、味の素株式会社の「パルスweet® スリムアップシュガー®」<スティック20本入袋>パッケージ外袋に採用されました。

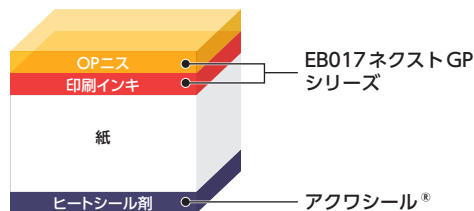


環境問題への関心が高まる中、石油由来プラスチックや温室効果ガス排出の削減施策の一つとして改めて「紙」が注目されており、包装材においても紙化の取り組みが広がっています。本包材は、東洋インキ、味の素株式会社、伊藤忠商事株式会社、伊藤忠プラスチック株式会社が開発した環境配慮型の紙製包装材です（特許出願中）。この度、東洋インキが開発したヒートシール剤「アクワシール®」は、製袋時に包装材を接着するために用いられる本包材のキーマテリアルです。本開発品は、Lactips社（本社：フランス）が製造する100%バイオマス由来の生分解性樹脂「ラクティプス」を使用しています。

さらに、本包材には当社が独自に開発した生分解性を有するポリ乳酸樹脂（植物由来のデンプンや糖を原料としたバイオマスプラスチック）を主原料とした、印刷インキ・OPニス「EB017ネクストGP」シリーズが使用されています。

バイオマス由来の生分解性素材を用いたヒートシール剤・印刷インキ・OPニスにより、包装材のプラスチック使用量削減、環境配慮型紙製包装材の価値向上に寄与いたします。サステナブルな世界を実現していくことが強く望まれている現在、廃プラスチック問題や海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化問題などが喫緊の課題となっています。東洋インキは、みなさまの生活の豊かさと地球環境保全の両立を目指し、日々刻々と変化するニーズに柔軟に対応できる製品とソリューションを提供していくことに努めてまいります。

【包装材の層構成】



印刷・情報

東洋インキ、カラーユニバーサルデザインツール Lioatlas® CFUDのサブスクサービス提供を開始 ～色彩のバリアフリーを実現～

東洋インキ株式会社（以下、東洋インキ）は、カラーユニバーサルデザインツール「Lioatlas（リオアトラス）® CFUD」のサブスクサービス提供を開始いたしました。サブスクサービス導入により、誰にでも見やすい「配色」を作成可能なツールで、カラーユニバーサルデザイン社会の実現に貢献します。

私たちは、情報を伝えやすくするために「色」を用いた区分けを日常的に多用しています。しかし、人間の色覚（生まれつきの色の感じ方）は一つではなく、色覚タイプによっては識別をすることが難しい色の組み合わせが存在することが知られています。こうした色覚タイプの違いに起因する色の識別のしづらさを解消していくための取り組みがカラーユニバーサルデザインです。

◎色覚タイプによる見え方の違いについて

人の目の網膜にある視細胞には、光の明暗を感じる桿体と色の情報を感じる錐体があり、錐体には赤色を感じる「L錐体」、緑色を感じる「M錐体」、青色を感じる「S錐体」の3種類があります。3種類の錐体を持つ色覚グループ（C型）が多数派を占めますが、日本国内では男性の約5%、女性の約0.2%は、一部の錐体を持たないか、もしくは分光感度がずれることで、C型とは異なる色の見え方をしています。



「Lioatlas® CFUD」は、カラーユニバーサルデザインに対応した色覚タイプによる違いがない、見やすい色の組み合わせを、誰でも簡単に作成可能なアシストツールです。最適な色の組み合わせ選定をサポートするだけでなく、色覚タイプによる色の見え方の違いも確認することができます。



東洋インキは、社会を人の色覚（色の感じ方）の多様性に対応、改善していくことで「人にやさしい社会づくり」を目指すNPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）の活動を協賛しています。



トーヨーケム、
2022年度省エネ大賞
省エネルギーセンター会長賞を受賞

トーヨーケム株式会社（以下、トーヨーケム）は、川越製造所における「省エネモデル建屋における省エネ活動の深化と省エネ手法の水平展開」が評価され、2022年度省エネ大賞省エネ事例部門において、省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。同賞の受賞は2020年度に続き2回目となります。

省エネ化に取り組み、
持続可能な社会づくりに
貢献しています



生産設備の省エネ化に取り組む

省エネ大賞は、一般財団法人省エネルギーセンターが主催し、事業者や事業場等において実施した他者の模範となる優れた省エネ取り組みや、省エネルギー性に優れた製品並びにビジネスモデルを表彰するものです。

トーヨーケム川越製造所は操業から60年以上が経過し、エネルギー効率の悪い状態が続いていたことから、2018年より省エネモデル建屋を選定し、生産設備の省エネ化に取り組んでまいりました。2020年からは生産状況に合わせて設備の稼働や条件を自動制御するなど省エネ活動の深化を進めるとともに、同取り組みを川越製造所ポリ

マー生産建屋4棟に水平展開することで、ポリマー関連部門全体の6.3%(2020年を基準年とする)にあたる212kL相当の原油換算エネルギー消費量を削減いたしました。これらの取り組みと省エネ実績が評価され今回の受賞となりました。

トーヨーケムは、一層の省エネルギー化に取り組み、環境負荷低減に資する環境マネジメントシステムの構築・維持に努めることで、環境との調和ができる持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

連結財務諸表の要旨

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2021年12月31日現在	2022年12月31日現在
流動資産	2,236	2,292
固定資産	1,833	1,819
資産合計	4,069	4,112
流動負債	1,121	1,135
固定負債	678	698
負債合計	1,799	1,833
資本金	317	317
資本剰余金	325	325
利益剰余金	1,517	1,514
自己株式	△98	△107
その他の包括利益累計額	122	141
新株予約権	2	1
非支配株主持分	83	87
純資産合計	2,269	2,279
負債純資産合計	4,069	4,112

連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

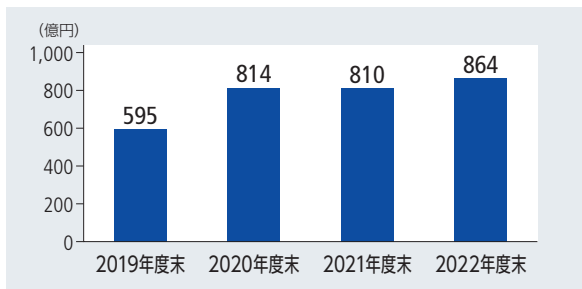
科目	2021年度	2022年度
売上高	2,880	3,159
売上原価	2,293	2,617
販売費・一般管理費	457	473
営業利益	130	69
営業外収益	38	43
営業外費用	13	33
経常利益	154	79
特別利益	7	59
特別損失	30	15
税金等調整前当期純利益	131	124
法人税・住民税及び事業税	35	28
法人税等調整額	△0	1
非支配株主に帰属する当期純利益	2	1
親会社株主に帰属する当期純利益	95	93

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

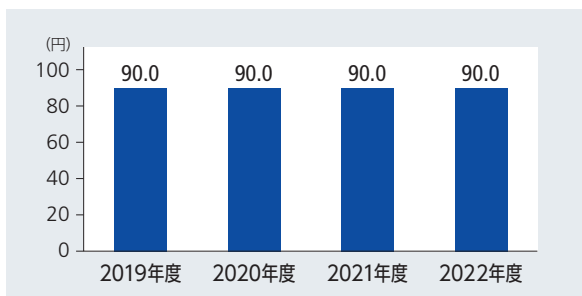
(単位：億円)

科目	2021年度	2022年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△176	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△120	△81
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	19
現金及び現金同等物の増減額	△122	△76
現金及び現金同等物の期首残高	731	609
現金及び現金同等物の期末残高	609	534

◎有利子負債の状況



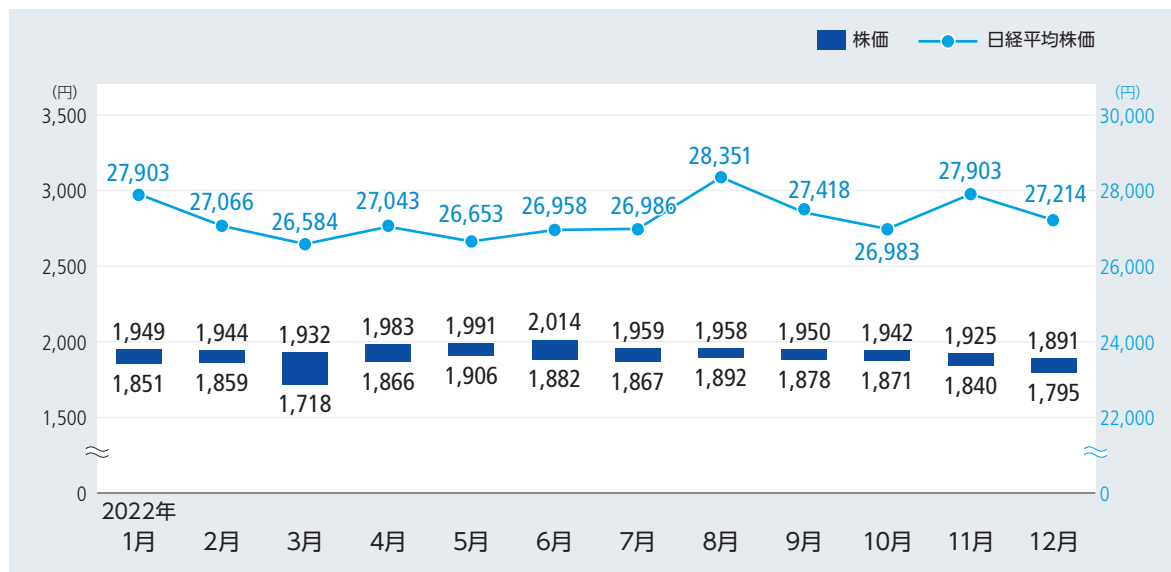
◎1株当たり配当金



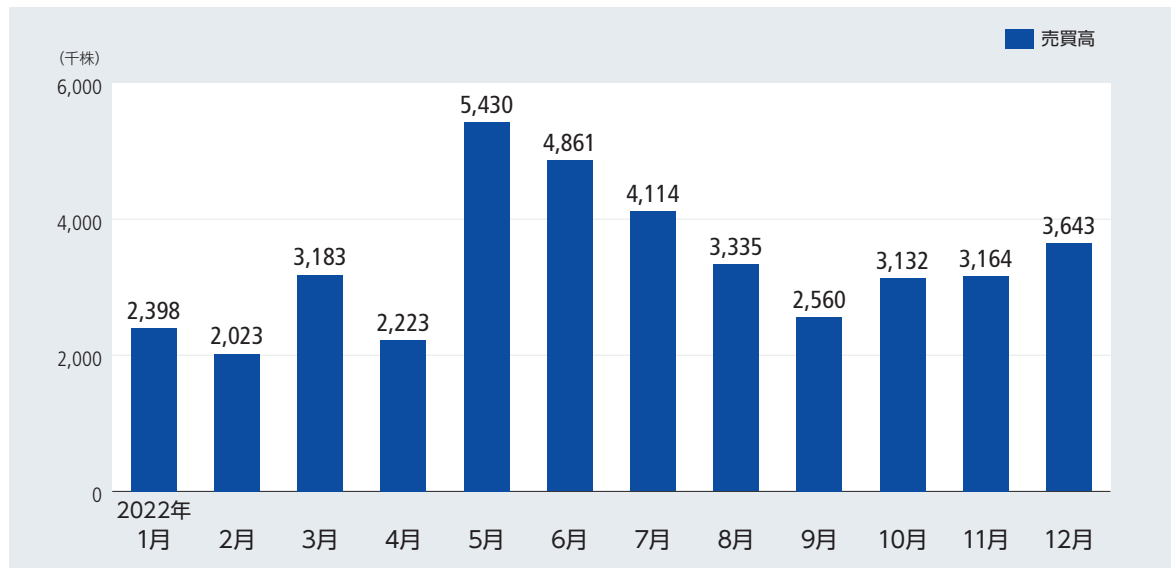
- 期末配当金：1株につき45円（中間配当金45円と合わせ年90円）
- 期末配当の効力発生日（支払開始日）：2023年3月24日

株式情報

◎株価の推移 (東京証券取引所)



◎売買高の推移 (東京証券取引所)



株式のご案内

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 ●定時株主総会・期末配当：毎年12月31日
●中間配当：毎年6月30日

株主名簿管理人

および
特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日休日を除く)

◎住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

株主優待制度

毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式を1年以上かつ200株以上継続保有する株主さまを対象に、保有株式数と継続保有期間に応じた優待品を、当社オリジナルカタログから1点お選びいただき、贈呈いたします。毎年9月下旬頃に当社オリジナルカタログを発送させていただきます。

東洋インキ SC ホールディングス株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03(3272)5731
インターネットによるお問い合わせ先 <https://schd.toyoinkgroup.com>
E-mail info@toyoinkgroup.com



この報告書は、当社グループのTOYO KING® NEX NVシリーズを使用して印刷しています。
このインキは、バイオマス度40%以上で、石油系の揮発性有機化合物(VOC)を含まない環境にやさしいインキです。